

市事研会報 おおさか翔

平成27年10月8日 発行 大阪市立小中学校事務研究会 会長 西尾 吉弘 編集 同事務局

ホームページアドレス：y1.x312v.smilestart.ne.jp

第23回大阪市立小中学校事務研究大会 開催にむけて

平成27年11月26日（木）
教育センター 2階 講堂

第23回大阪市立小中学校事務研究大会
大会実行委員長 渡邊 康江

2学期が始まり、体育大会や文化発表会など学校行事の準備で忙しい時期ですが、秋風が心地良い時節となりました。

今年度、市事研では、新しい時代に対応した学校組織体制を創造し、コンプライアンスの確保とより信頼ある学校事務の実現に向け、確かな実践とその成果を教育現場の実態に即した制度の構築へつなげていく必要があると考え、研究課題を「つながろう！つながりから見える学校事務の向上」とし、活動の重点を「学校力が向上する学校事務モデルの研究」「信頼に応える確かな学校事務の実践」「組織力の向上」とし、研究を進めてきました。

そこで、実行委員会では、大会サブテーマを「見つめよう学校教育 学校事務の視点から」とし、大会にむけて準備を進めています。

記念講演には、国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部 総括研究官 本多 正人様をお迎えし、「政策志向の学校事務管理論」と題し、ご講演いただきます。

研究発表では、「提案型の学校事務職員を目指して ～子どもたちの学びを豊かにするチームの一員として～」と題し、研究発表を行います。

大阪市の学校事務職員を取り巻く情勢は、めまぐるしく変化しています。その変化に対応し、学校事務の担うべき新たな役割についてみなさんと一緒に考える大会になればと思います。

第23回 研究大会実行委員名簿

役 職	名 前	所 属
実行委員長		
副実行委員長		
実行委員		
実行委員		
実行委員		
実行委員		
実行委員		
実行委員		
実行委員		

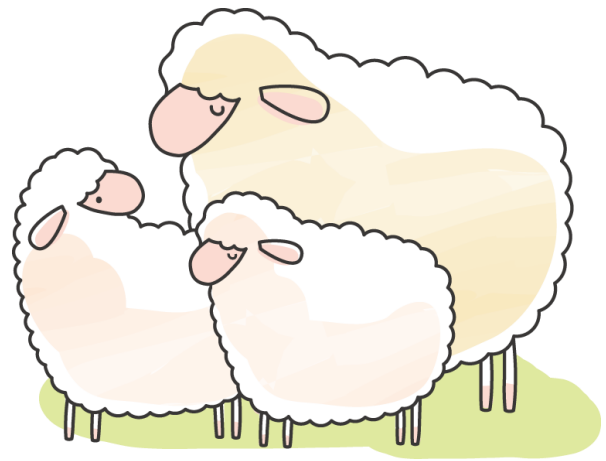
セルフケア研修

8月29日（土）クレオ大阪東（大阪市立男女共同参画センター東部館）において研修会（講演会）を開催した。西川伸男社労士事務所 西川 伸男 様を講師に迎え、「セルフケア研修」と題して、メンタルヘルス対策やラインケアといった内容について研修会を行った。

はじめに、ラインケアについて、会社の管理監督者には安全配慮義務があり、管理監督者はどこで部下の不調に気づき、適切に対処し、そのことを記録したかが重要であると述べられた。また、うつ病は脳の疾患と言われているが、うつ状態は原因を除去することで治りやすいため、うつ病になる前にストレスへ上手に対処することが大切であると述べられた。

次に、セルフケアについては、ストレスやメンタルヘルスを理解し、自分の変化に気づき、ストレスをマネジメントすることが重要であると述べられたあと、実際にチェックリストを用いて自分自身の状態を確認し、ストレス要因の理解に取り組んだ。

また、ストレス要因は取り除けないものが多く、ストレス耐性の強化やストレス反応に適切に対処することが大切であると述べられた。対処方法の一つとして、口から息を吐いた後に2秒かけて鼻から息を吸う腹式呼吸を3回行うことが効果的であると紹介があった。



続いて、ストレスマネジメントとして、『イライラ型』『ゆううつ型』『体調不良型』のタイプに分け、それぞれのタイプに適したストレス解消方法が述べられた。一つ目の自己肯定感が強い『イライラ型』は、身体を動かすなど即効性のあるストレス発散法、二つ目の自己否定感が強い『ゆううつ型』は、自然の中で過ごすなど静かに自分を見つめるストレス発散法、三つ目のストレスが痛みの症状として現れる『体調不良型』は、お風呂にゆったり入ることやストレッチなど心と身体をゆったりさせるストレス発散法が適していると紹介があった。

他にも、自分の強みと弱みを知る“SWOT分析”や、不安や後悔したできごとには2時間・2日間・2週間の間を置くことで心のバランスを保つ“イライラしない2・2・2の法則”など、ストレス要因への対処方法について紹介があった。また、仕事を楽しむコツの一つとして、小さな目標を作り、工夫・改善・文書化することでやりがいを感じることや、好きなことだけを思いきり考える時間も必要であると述べられた。

最後に、信頼されるように相手の目を見て話すことや、誤った敬語を使用していないかなど、自分を守る術としてビジネスマナーを身に付けることの重要性についても述べられ、研修会を終えた。

日々、私たちが業務を行う中で見過ごしがちな心の健康について、改めて顧みることができ、とても有意義な研修会となった。

平成27年度 第1回 事務局・専門部合同研修会

8月26日(水)大阪市教育センターにおいて、第1回事務局・専門部合同研修会を開催した。

まず、西尾会長からあいさつがあり、7月に文部科学省より公表された「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(中間まとめ)」と「学校現場における業務改善のためのガイドライン」について紹介があった。資料およびガイドラインには、日本の教職員の現状や「チーム学校」を実現するための基本的な方向性や他都市における好事例などが取り上げられている。また、平成29年度に開催される第49回全国公立小中学校事務研究大会(京都大会)では、大阪市として分科会を一つ担当することも説明があった。あいさつの後、参加者全員が簡単な自己紹介をし、前半の研修を行った。

今回は、自分たちの仕事の目標を達成するために、どのような方法でその目標までたどり着けば良いかを考えるための自己マネジメント研修を行った。まず、文部科学省が発行している「学校組織マネジメント研修モデル・カリキュラム(事務職員版)」から抜粋した資料「目標の具体化シート」が配付し、記載例説明のあと、参加者全員が「目標事項」「達成された姿」「達成のための手立て」「スケジュール」四つの項目について、業務に関する問題点を見つけ、なぜそのようになるのか、それをどう解決するか、最終的にはどうなれば良いか考え、シートへの記入を行った。このシートは上記四つの項目が表になっており、順番に記入することで具体的な計画や段取りを考えることができるようになっていた。それぞれシートへの記入後、6名ずつのグループに分かれ、自分たちの設定した目標や手立てについて意見交換を行い、その後、代表者1名がグループの内容を発表した。学校維持運営費や学校徴収金だけでなく、勤務情報システムや若手職員の育成など様々な視点から設定された目標が発表された。「目標の具体化シート」に順序立てて記入していくことで、自分自身の目標や課題を整理することができ、職場でどのように仕事を進めていくのかということを考える良い機会になった。また、自分だけでなく、他者の目標や考えを聞くことにより、様々な気づきが得られた。同じ職種でも、若手・中堅・ベテランの各段階に応じて仕事の進め方、役割や課題が異なり、目標設定とその目標を達成するまでの手順も様々であるが、まずは考え、実践することで、日頃の問題解決の糸口を見つけることができる。今回の研修で設定した目標を各自職場で実践し、1月頃開催予定の第2回合同研修会では、目標までの位置と進捗状況の確認、そして手立てやスケジュール、手段を修正する必要はないか、修正する必要があるらどこを修正したら良いかなどを考えていく予定である。

前半の研修終了後、学校維持運営費についての日頃の疑問点などまとめた資料をもとに、情報交換を行った。

その後、中橋研究部長より第47回全国公立小中学校事務研究大会熊本大会の報告があり、続いて大舌事務局次長より第33回政令指定都市学校事務職員研究協議会、竹口研修部長より近畿地区公立小中学校事務職員研究会研修会(サマーフォーラム)の報告が行われた。

最後に、渡邊副会長より今回の研修の振り返りとまとめ、閉会のあいさつで研修会を終了した。



第47回 全国公立小中学校事務研究大会（熊本大会）

8月5～7日にかけて熊本県熊本市に全国各地から約2200名の参加のもと、『カリキュラムマネジメントの展開と学校づくり』－Here We Go! 子どもたちの未来へ チーム学校の推進－を大会テーマとして、第47回全国公立小中学校事務研究大会（熊本大会）が開催された。

1日目は、開会行事のあと、文部科学省初等中等教育局 視学官 新津 勝二 様より「日本の教育の成果と課題について」・「学習指導要領の改訂について」・「高大接続改革について」・「教育の情報化の現状について」・「学校業務の適切な分業によるチーム学校の推進について」の五つを重点に行政説明が行われた。

次の全体研究会では基調報告とパネルディスカッションが行われ、基調報告では、共同実施の全国的な実施状況やその取組状況、加配職員の目的と成果についてなど、調査結果をもとに報告された。パネルディスカッションでは4人のパネリストから「学校教育にかかる現状の把握」・「事務職員が果たすべき役割」・「事務職員の力量形成の在り方」の三つのテーマについて意見が述べられた。

大会2日目は大会テーマに基づいて、7会場で分科会が開催された。

・本部研究分科会（全事研本部）

＜カリキュラムマネジメントによる学校づくりと学校事務＞

- ・第1分科会（福岡支部） ＜学校経営ビジョンの実現を目指す学校事務と共同実施＞
- ・第2分科会（佐賀支部） ＜アクティブ・ライブー学校事務白熱教室ー＞
- ・第3分科会（長崎支部） ＜長崎県の学校事務の未来像＞
- ・第4分科会（宮崎支部） ＜宮崎は今 パートV「新たな学校事務の構築」＞
- ・第5分科会（鹿児島支部） ＜風は南から 鹿事研のチャレンジ＞
- ・第6分科会（熊本支部） ＜教育行政改革における組織機能とカリキュラムの展開＞

3日目のまとめの会では、大会1日目と大会2日目それぞれの担当責任者から、得られた成果やその場の様子などが報告された。その後、全事研の飯島研究開発部長より「今大会が『第8次研究中期計画』の2年次です。得られた成果と課題から来年へつなげていきたい」と大会の総括があった。引き続き行われた記念講演では、絵本作家であり画家・詩人でもある 葉 祥明 様から「芸術が人生に教えてくれること～いのちと平和を大切に作る心～」と題して講演が行われた。地雷問題を訴える絵本を作成するなど絵本を通じた平和活動についてお話があり、「生きる」ことについて考えさせられた。最後は、詩の朗読で締めくくられた。閉会式では全事研の鳥本会長から閉会のあいさつ、宮本実行委員長から閉会宣言があり、幕を閉じた。

大会に先立ち8月4日、平成27年度全事研定期総会が開催された。会長あいさつ、熊本大会実行委員長あいさつのあと、功労者表彰式があり、平成26年度事業報告、決算報告及び監査報告、平成27年度会長、副会長及び監査の選出、常任理事の承認、平成27年度事業計画（案）、予算（案）について提案があり、すべて承認された。



第33回 政令指定都市学校事務職員研究協議会

7月17日（月）～18日（火）の2日間、広島市のホテルニューヒロデンにおいて、第33回政令指定都市学校事務職員研究協議会が開催された。

1日目は、「政令指定都市給与移管に向けて事務研究会としての取組」というテーマで、各政令指定都市より現状報告があった。事前アンケート調査の中から、学校事務職員の採用区分・職制・職域等について、任命権者による研修会の内容、子どもの貧困対策・就学援助加配や事務への関わり、就学援助入学準備金の入学前支給制度、学校徴収金会計システムの導入、学校間連携などについて、情報共有と研究協議を行った。

2日目は、「政令指定都市給与移管に向けて事務研究会組織のあり方」というテーマで、各政令指定都市事務研究会と各都道府県事務研究会との関わり、研修会の内容などについて研究協議を行った。

次年度については、福岡市で開催する予定である。



近畿公立小中学校事務職員研修会（サマーフォーラム）

平成27年8月20日（木）奈良県東大寺総合文化センターにおいて、近畿公立小中学校事務職員研修会（サマーフォーラム）が開催された。

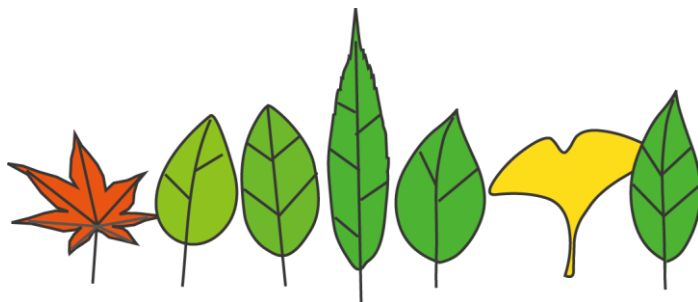
開会行事のあと、単位研究会の取り組みについて、京都市・大阪府・滋賀県・神戸市（小）・奈良県の各研究会から、活動方針や専門部・事務局の活動についての報告、今年度の研究大会の案内があった。

その後、茨城大学教育学部 学校教育教員養成課程 准教授 加藤 崇英 様より「『チーム学校』論議とこれからの学校事務職員の可能性」について講演があった。

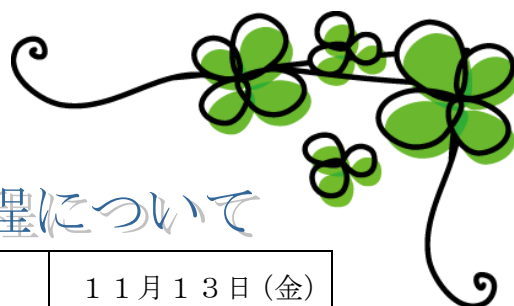
はじめに『チーム学校』は新しい指摘だが、考え方の流れそのものは数年来続いているものであると述べられた。教育行政・学校の合理化・効率化とともに、事務の合理化・効率化もいっそう進むうえで、その中心にいかなる形で貢献しているかが問われると述べられ、変化に対応し学校事務職員の力量形成に資する標準的職務の絶えざる更新をすることが重要であると言及された。次に、学校事務職員は「必要とされている」けれど、合理化・効率化・多様な職種による協働化等の「変化している」をどう受け止めるか、とりわけ学校内

外の縦断・横断的課題の増加をどう考えるべきかと問題提議された。

最後に、『チーム学校』とは、①直接の子どもの支援、②教師が授業に集中できる環境づくり、③新たな協働としての「チーム学校」であり、そのためには多様な職種と支援の必要性・可能性があり、教育以外の

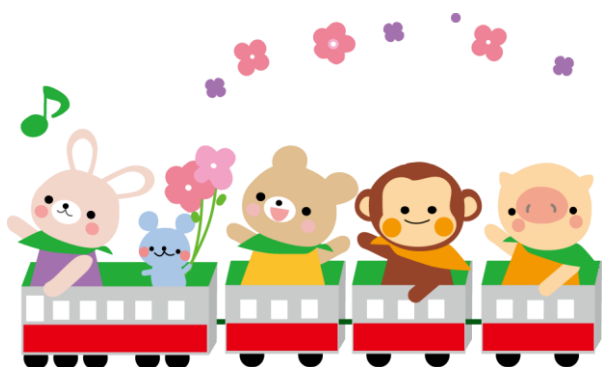


専門スタッフの参画として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置強化が考えられ、制度誘導と現場実態の相互関係のなかで、学校を良くしたいという思いは一緒であると考えられるため、学校事務職員がするのかもしれないのかの選択も踏まえて、近畿地域で共通の課題や、成果の確認を行ってください、ヤマ場ですと話を締めくくられた。



今後の近畿圏各研究大会の日程について

第24回大阪府公立学校事務研究大会	11月13日(金)
第42回奈良県公立小中学校学校事務研究大会	12月 3日(木)
第44回滋賀県公立小中学校学校事務研究大会	12月 4日(金)
平成27年度京都市立学校事務研究大会	12月 4日(金)
神戸市立小学校学校事務研究大会	1月26日(火)



9月の大型連休を利用して引っ越しをしました。現任校に赴任してからは自転車通勤だったので、約3年ぶりに電車通勤です。雨の日や寒い冬の朝でも頑張って自転車で通勤していたころが懐かしいです (I)

